

「認知症の健康手帳」について



琉球大学精神病態医学講座
近藤 毅

高齢化社会を迎えて今後増加が見込まれる認知症に対し、包括的な地域的取り組みが待望されています。伝統的に長寿県とされてきた沖縄においては、お年寄りの方々が敬われ大事にされるという好ましい文化的土壌が存在する一方で、ご家族が認知症の高齢者を抱え過ぎてしまう傾向も指摘されています。このため、認知症があったとしても、早期発見・治療の機会を逸してしまったり、ケアを提供する地域資源を十分活用できていない場合もしばしば見受けられます。可能な限り質の高い生活を送っていただき、ご家族との有意義な交流を保っていただくためには、治療による認知機能の維持や周辺症状の改善および経過に応じたきめ細かいサポートを受けていただく必要があります。実際、社会的には患者さんのみならずご家族をサポートする諸制度があり、専門的な介護ケアを提供する多くの機関が地域の中に存在するわけですが、これらが効率的にネットワーク化されることでニーズに応じたサポート資源の提供・活用がより迅速に展開できるであろうと期待されます。また、認知症の方々が複数の機関において

様々なサービスを受ける場合、各機関が情報を一元化して共有したうえで、個別の重症度・進行度に即したサポートがなされることがより望ましいと考えられます。

沖縄認知症研究会では、認知症の方々およびご家族の皆様が複数の機関を利用された場合においても、安心して一貫した包括的支援が受けられることができるよう、数年来、地域連携型のクリニカルパスの作成に向けて取り組んでまいりました。クリニカルパスは認知症の医学的治療から介護ケアに至るまでの必要不可欠な道筋を示すものであり、同時に各機関が漏れなく情報を共有し合い、多角的な視点から個別の治療やケアを考案するための貴重な資料となるものです。最終的にはようやく、平成22年4月3日に開催された同研究会の企画運営委員会において、脳健康手帳(図1)、運用マニュアル(図2)、施設間の連絡票(図3)、認知症の一般経過表(図4)の4点を一つのセットとして認知症クリニカルパスの完成をみましたので、沖縄県医師会報の誌上をお借りいたしまして会員の皆様にご紹介させていただきます。

まず、脳健康手帳(図1)の運用にあたりましては、運用マニュアル(図2)をご参考に、ご家族に脳健康手帳(全20頁)についてご説明いただき、ご家族の同意書面および関係機関の連絡先を記載していただきます。同意書の写しは、かかりつけ医、専門医療機関、ケアマネ

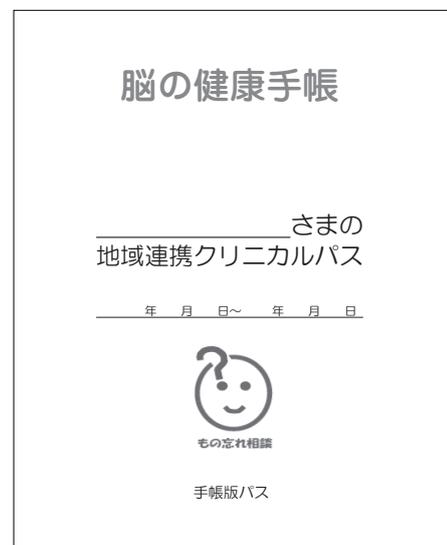


図1：脳健康手帳(表紙)

